

今すぐ中国人と

友達になり、恋人になり、

中国で人生を変える本

井上純一

中国があなたを待っています!

大ベストセラー

『中国嫁日記』の著者

が解き明かす、

最も巨大で不可解な隣人・中国人の人付き合いの論理と極意。





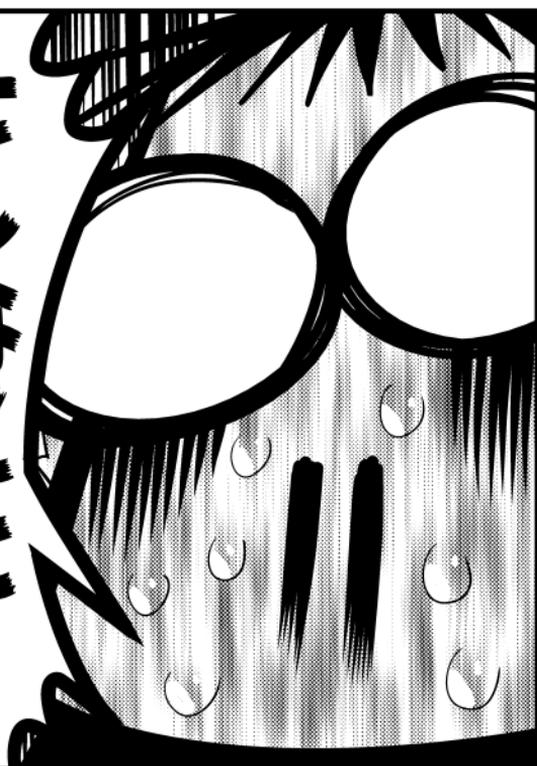
あは

『今すぐ中国人と  
友達になり、恋人になり、  
中国で人生を変える本』を  
書いてください

星海社名物編集

太田

そんなこと  
いしたがる奴は  
ね——  
!!!!



どうも

私、井上純一です  
いのうえじゅんいち

わたくし

月サシ

40歳に  
なったあたりで  
20代の中国人と  
結婚しまして…

そのことを  
漫画に描いて

ちよっとだけ  
ヒットした者です



本業は  
ゲームデザインとか  
小さなフィギュア会社  
やってたりとか…

それぞ  
中国に  
いますよ

中国はまあ、  
皆さまが知っている  
とおりで

ものすこし  
格差社会

大気

汚染

毒食品

共産党  
独裁

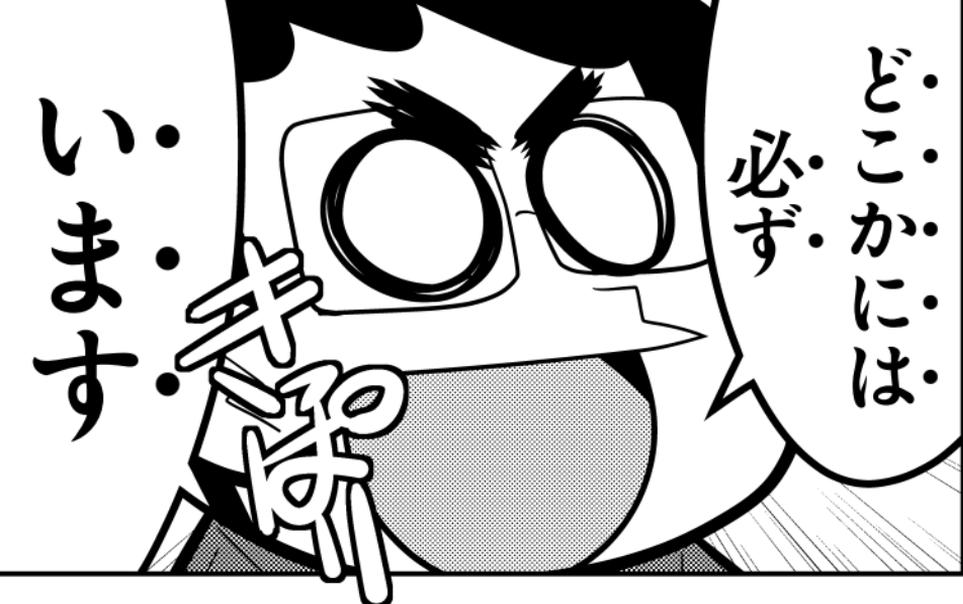


そんな中国に  
行きたがる奴が  
いるか——!!!!

おおおおおお

どこかには  
います





ど・こ・か・に・は・  
必・ず

い・ま・す

ギョ



ま、とりあえず  
星海社  
大里支  
インタビューだけでも  
収録させていただきます

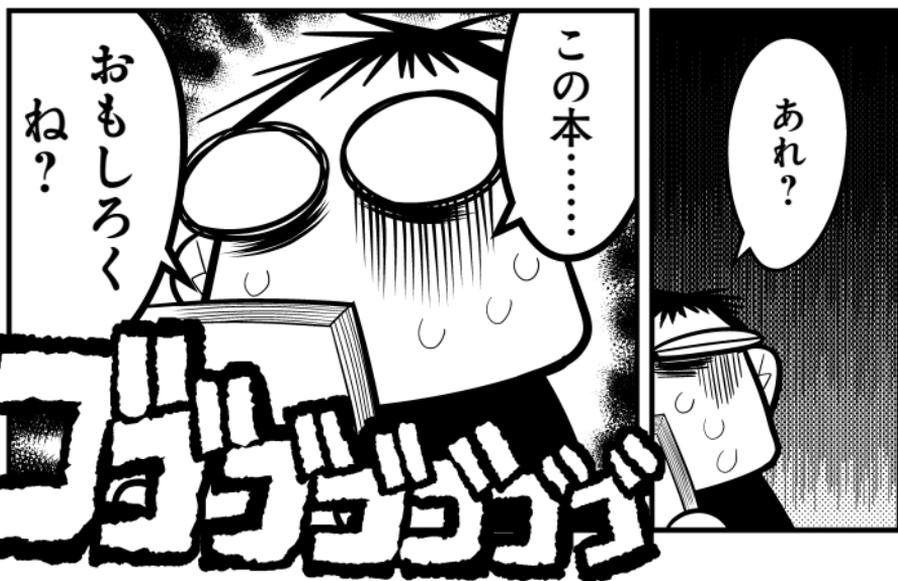
世裁の  
レニタル  
会議室

ダメだったら  
ボツにしますよ

マジで

月サン  
ハルト  
小水カ  
右京  
梶岡氏

どうして  
数回だけか  
出てる  
……  
……

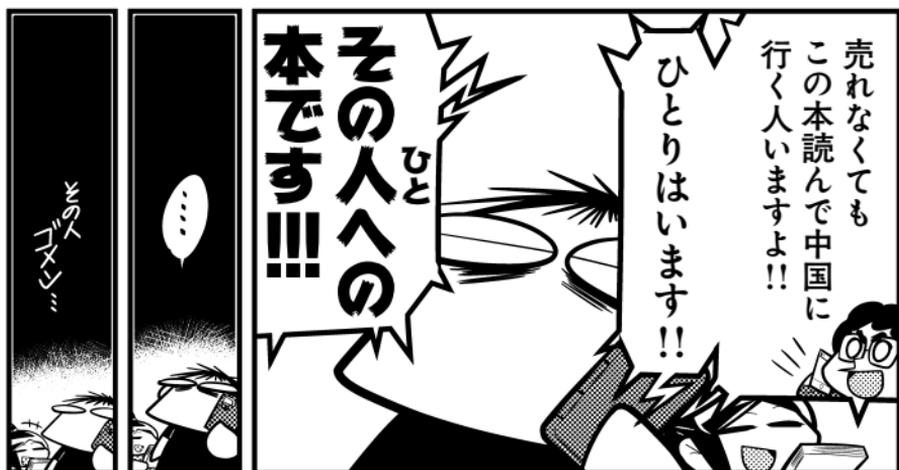


あれ？

この本……

おもしろく  
ね？

ゴゴゴゴゴ



今すぐ中国人と友達になり、  
恋人になり、中国で人生を変える本  
井上純一

星海社

75



1  
章

中国人と友達になるための極意

11

中国人の“人付き合い”の論理と神髄 12

〈中国人にとって友人とは？〉 12

〈中国人の友人関係には三種類ある！〉 14

〈自己主張しないと友達になれない国〉 20

今すぐ中国人と友達になろう 25

## 2 章

〈明日からできる中国人との接し方〉 25

身内こそが最強の戦力となる 39

身内の力を集めて世界と戦う 40

〈身内とは何か?〉 40

〈身内は強力な戦力となる〉 49

義務を果たして身内を守る 55

〈身内関係を維持するために〉 55

〈身内に対してしてはいけないこと〉 57

# 3

章

最高の恋人作りは身内の紹介から

67

中国人と恋人になるには 68

〈最強の身内ネットワークとは〉 68

〈デートについて〉 74

中国人と家族になるには 80

〈お金を貸すのは身内だけ〉 80

〈身内に対してしないといけない義務とは〉 83

# 4

章

中国で着る・食べる・住む 99

今すぐ中国に移住しよう

100

〈中国移住は身内を作ってから〉 100

**日本人として快適に中国で暮らす方法** 105

〈銀<sup>ぎん</sup>聯<sup>れん</sup>カード〉 105

〈中国生活に必要なお金〉 107

〈衣服の値段〉 108

〈食費〉 109

〈日本食について〉 114

〈中国のアルコール事情〉 116

〈反日について〉 118

〈移住において面倒だったこと〉 120

〈中国での子育て〉 122

〈日本人がやってはいけないこと〉 127

〈中国人と食べる、飲む。そして中国のインターネット〉

# 5

章

## 中国で人生を変える

137

中国で人生が変わった人の話

138

〈中国に行って人生が変わった人たち〉

138

中国のオタクとコンテンツ

143

〈中国のオタク〉

143

〈中国人オタクの拡大〉

147

〈僕が漫画家になった経緯と、中国のクリエイターについて〉

152

井上純一、中国と日本と世界を語る

163

〈日本人・井上純一からみた中国人〉

163

あとがき

170

主要参考文献

174

1  
章



中国人  
と  
友達になるための極意

〈中国人にとって友人とは？〉



「中国人と友達になる」ためにいちばん必要なルールについて最初にお話すると、中国人は「身内」という概念を何より大事にするということなんです。その「身内」の内側か外側かで彼らの人付き合いはまったく違う。僕と月ユヰがいい結婚をできたのは、僕たちふたりがお互いに、僕たちの出会いを仲介してくださった恩人である、フィギユア工場の社長さんチュウウの中さんの身内、つまり枠の中の人だったからなんです。



中国人は身内の輪を「封<sup>ホウ</sup>帮」という字であらわします。たとえば、同郷の仲間であれば「東京帮」や「大阪帮」となります。

言葉には出さないですけど、「帮」の字はよく使いマス。

基本は文語なんだね。中国人は、その帮の外側の人に対しては、ルールが違うから何をやってもいいと考えている気配があります。極端な話、帮の外側の人間は人間扱いしなくていい。中国人における友人関係は日本人とはまったく違うルールで動いているんです。結論から言うと、中国の人付き合いの基本は利害関係。だからたとえばもし、身内じゃないところで女の人を引っかけたら大変なことになってしまう可能性が高かったりもします。

中国人の友人関係の根っこには、身内か、身内じゃないかの判断が確実にあるので、とにかく中国でうまくやっていくためには身内の力が絶対が必要です。日本人と中国人のあいだで起こる人間関係のトラブルの大半の原因は、まず間違いなく、その日本人が中国人の帮の内側の人間、つまり身内になっていないからな

んです。

それではまずは中国人にとって友人とは、いったいどんな存在かということ  
月が解説します。

〈中国人の友人関係には三種類ある！〉



乱暴と言えば乱暴な分類なんだけど、中国の友人関係はだいたい「友少」と  
「同学」と「朋友」の三つに分けられます。友少は文字通り「少年少女の頃か  
らの友人」ですね。

友少 .. 幼なじみ

同学 .. クラスメイト

朋友 .. それ以外のほとんどの友達



友少は子どもの頃カラの、本当に利益を考えない、一生の、すごく大事な友達。

友少は利害が絡まない友達なんだよね。中国人の人間関係の中では例外で、特別な関係です。一緒に生まれ育った人じゃないとこの関係にはなれない。時期としては小学校に上がる前くらいまでかな？

ウン。あとは学校のクラスメートも。特に大学のトキの友人はすごく大事。



学生時代の、クラスメートの場合は次の分類になる同学って言うんだね。同学は友少ほどじゃないけど、それほどには利害関係が絡まない、絡めてはいけない友達です。日本人は日本に住んでいるから中国人とはまず友少にはなれないけど、学生さんならば今から中国に留学すれば同学にはなることができます。これは、いざれ中国で暮らしてみたい人にはすごくおすすめ。利害関係が絡んでこない、無条件に信頼できる中国人の友人というのは本当に得難いえがたものです。身内とい



う絶対の繋がりがあれば、騙だまされたり裏切られたりはしないですから。

友達にひどいことしたら大変デスヨ。

それこそ、日本でいう村八分むらばちぶどころじゃ済みません。中国人における身内の概念はそれほど重要なものなんです。だから中国人は友少や同学を本当にすごく大事にします。実際月が実家に戻ったときは、頻繁ひんぱんに同級生に会いに行ったり、一緒に食事に行ったりします。僕もそれについていって月の友少や同学の人を紹介されたんですけど僕の中国語があまり上手くないので、途中から気が引けて会いに行かなくなっちゃいました。でも、これは本当は会いに行ったほうがいいのは間違いないです。

基本的に中国では、親しい人間関係は本当に親密で、頻繁に連絡は取るし、直に会えるなら会って話したり食事をしたりします。日本で言う一生ものの友人に對する感じに近いですね。家族的な関係と言えるかも知れません。

そして、朋友というのは友少と同学以外の友達のことですね。これは、その人



が社会人になってからの友人関係です。この朋友には利害関係がほぼ確実に発生します。つまり、中国ではほとんどの友達とは利害関係で繋がっているんです。

**友少と同学**には基本、利害関係はありません。でも朋友は別。

中国人と朋友になるのに必要なことは、まず自分自身が自立した、強い個人であることです。強い友人⇨身内の存在は自分を強くしてくれますが、強力な身内を作るためにはまず自分が個人として強くないといけません。友達を作るためには、まず自分が相手にとって役に立つ人間にならないといけません。だから、中国において人は強い個人として独立することが何よりも大事なことになるんです。そうして、強い個人どうしが身内の関係になって、互いに身内として力を高め合う。それが中国という国家の国力の源になっていると言っても過言ではないんです。

中国という国は実に多くの民族や階層によって構成されていて、それぞれ使っている言葉や浴よくしている文化も大きく違っていたりもする。そして、国家の体制

や方針も時代時代でころころ変わる。だからそもそも、日本と比べると信頼できる相手と知り合うコストがものすごく高いんですね。同じ国のなかでも言葉や文化の通じる人が限られていて、しかも上に立つべき国も信用ならないという時代がずっと続いてきた。だから、信頼のおける仲間内で助けあってやっていこうという文化になるのも頷うなずけますよね。こうしてできた身内の集まりが幫うなずであり、幫を強化するために信頼できて、力のある身内を取り込み、その規模を大きくしていくわけです。

強い身内を作るためにはまず自分自身が個人として強くならなければなりません。そして、この「強さ」が何なのかというと、具体的には経済力を指します。お金です。身内は経済的に同じレベルの人間が集まって形成されるんです。権力や暴力であることもないわけではありませんが、いちばん分かりやすいのはお金ですね。

だから、仲良くなりたい中国人に対しては「自分はあなたたちと経済的に同レベルの人間です」という自己アピールが必要です。こうした時によく行なわれるのが、「給料をいくらもらっているか」という話ですね。日本ではあまりしません



が、中国の場合ある程度親しくなると普通に収入の話になったりします。これは、相手と自分の経済レベルの差を計り、身内に加えられるかどうかの判断基準にしているという部分もあるわけです。

こうしてできた友人との繋がりは、関係が深ければ深いほど、こう言っては何ですが無理を通して貰えます。その究極形が幫なわけですけど、そのレベルだと下手をすると法律よりも幫内部の取り決めが優先されたりしますからね。そこまですでなくても、たとえば中国に来て困ったときに中国人の友人に電話をしたならその友人の友人（もしかしたらその更に友人の友人、とかだったりすることもあります）に話が伝わり、通訳などの便宜べんぎを図って貰ったりすることはよくあります。これから中国に行くんだけど、と中国人の友人に話したとき、「じゃあ友達に頼んで案内して貰うよ」と言われて、現地に行ってみたら全く見知らぬ人がライトバンで出迎えてくれた、なんていうのはそれこそよくある事例ですね。

友達の友達は友達「デスカラ、みんな力になってくれますし、ワタシもみんなの力にナリマス。

## 〈自己主張しないと友達になれない国〉



中国人と日本人のコミュニケーションがすれ違ってしまう理由も、ここにあるんです。中国人に対しては、たとえ相手の意見とぶつかる立場であったとしても、自分の意見をしっかりと言うことが大切です。自分の手の内を明かさないと人間は信頼されない。日本人がよくやりがちな、相槌あいちや曖昧あいまいな微笑みを浮かべ、みんなと同じでいいというコミュニケーションを取っていると、中国人からは「何を考えているかわからない得え体のしれないやつ」と受け取られます。

会合に集まった友人五人全員がラーメンを食べたいと言っているとしても、もしカレーを食べたかったらカレーを食べたいと言わないといけません。日本人だとそれはなかなかできないですよ。でも、それでも喧嘩けんかにはならないので安心してください。むしろ何も言わないで黙だまっていたり、付和雷同ふわらいどうするほうが危険です。



もし意見がぶつかったらイチバン偉い人が決めマス。

ルールが非常にわかりやすいよね。日本人どうしでは人とコミュニケーションを取るときに「今日は暑いですね？」というように相手と自分は同じ感覚を共有しているという確認の挨拶あいさつから入りますよね？ それは天気という話題が当たり障りなく相手の同意が得られるものだから天気の話をするんです。天気は相手にとっても自分にとっても同じものですから、その同じものを体験している我々は仲良くなりましょう、という論理です。それが日本人のコミュニケーションの基本。でも、中国人は違います。

中国人は「今日、何食べた？」からコミュニケーションを始めます。中国人の挨拶は日本人とはルールが真逆で、自分しか知らない個人的なことを話すことで相手と仲良くなろうとするんです。食事は、当たり障りのないもつとも直近の個人的な情報です。その個人的な情報、個人的な体験をお互いに共有するからこそ我々は仲良くしましょう、というのが中国人の友人関係の論理



基本的にはひとりが全部払いマス。



相手のこともきかないとダメ。

うん、相手にも同じことを聞いてあげてください。「今日、何食べた？」って。それが中国人と友達になるための第一歩です。自分の個人的な話をして相手の個人的な話を聞く、というラリーが大切です。

そのわかりやすい例をひとつあげると、中国人にはワリカンという概念はないんです。

です。相手を理解するために、相手のことを知ろうとするんですよ。

だからもしも、中国人から「今日、何食べた？」と聞かれたら、それはあなたと仲良くしたいという中国人のサインです。「なんでそんなことを聞くんのだ？」などと不審に思わず、ちゃんと答えてあげましょう。



そして、次の機会には別の人が払って順番に回っていくんだよね。これも、借りを作って借りを返すというラリーです。このラリーには上下関係がありません。だから、中国人と仲良くなりたかったら最初に美味しい食事をおごってあげるというアイディアは良いかもしれません。その場合、支払いは決してワリカンにせず、必ずあなたがまとめて支払うこと。そうすれば、次はあなた以外の人が出さないといけないのでまた誘ってもらえるはずですよ。このように、あいつには借りがあるから借りを返そうということで、中国人の人間関係は続いていきます。

この辺りの話には面白い話がひとつあって、僕の知り合いが海外に留学していた時に、同じように留学していた中国人と仲良くなったんですよ。で、その中国人の友人の紹介を受けて、旅行に来た別の中国人が彼の元にやってきました。それで彼は観光の案内や通訳みたいな世話をして、その代わりに言っただけと一緒に食事をする時には彼ではなく旅行に来た中国人が全部お金を払ったそうです。で、その中国人が帰国した後、別の中国の友人にその話をして、今度はその中国人が旅行の時に彼の所にやってきて案内してもらっては食事を一緒に、というのがわりとエンドレスであったそうです。一見すると彼が食事の代金を一切払って

いない、借りばかり作っているように見えますが、彼は不慣れな人に現地を案内する、というコストを支払って貸しにしたり、借りを返したりしていたわけですね。なので、「友達が彼にはよくしてもらった借りがあるし、自分も案内してもらっているから」と、借りを返し、関係をつなぐために、案内してもらった人が食事の支払いをするのは自然の行ないと言えるでしょう。

日本人がよくやるワリカンにはそれが無い。なにせ貸しも借りもなく、その場で全部清算してしまうわけだから。これは中国人からしたら「俺から借りを作らないとはなんて失礼なやつなんだ」ってなるわけですね。中国人にとつては「借りを作らない人間」心の内を見せない人間」ということなんです。それでは友人関係は築けません。自分のことを語らない相手のことは信用できない、それが中国人の論理です。だから、中国人と挨拶するときには天気の話をするのは、日本人に挨拶するときには食事の話をするくらいとんちんかんなことなんです。「天気なんてすぐに共有できる話が見たいんじゃない、君のことを教えて欲しいし、僕のことを知ってもらいたい」。中国の日常会話の根底にあるのは、これだと思えます。

今すぐ中国人と友達になろう

## 〈明日からできる中国人との接し方〉



実のところ、中国人と友達になる方法というものはすごくシステマチックにまとまっていて、それを段階的に満たすことができれば、友人（この場合朋友）になることは決して難しくはないんです。その段階を簡単にまとめると、こんな感じになります。

### 1.. 面識を作る



- 2… 日常会話で自分の懐ふところを開示する
- 3… 贈り物をする
- 4… 一緒に食事をする
- 5… 家に招いて食事をする
- 6… 家に泊まる／泊める

最初の「面識を作る」ためには、これは簡単で家の隣の人とかに会ったらちゃんと挨拶すること。そうするといずれ日常会話をする関係にながっていくはずで  
す。その場合はそのまま次の「日常会話で自分の懐を開示する」につなげるわけ  
です。そうした日常会話の際には相手の話を聞き、自分もちゃんと話を伝えるよ  
うにしないとイケないです。



なあなあは駄目ですネ。それに、相手のことを知りたい、仲良くしたいと伝える  
ためにも色々聞いたり答えたりするのはとても大事です。あと、子ども褒ほめる



のとても大事。女性が中国の人と仲良くなりたいたいなら、可愛いね、とか何度も子ども褒めたらいい人と思ってくれるカンジ。



中国の人はとにかく相手の子どもを褒めるからね。うるさいからって責めたり文句を言ったりすることはないと行ってもいいです。ここについては、子どもというのは究極の知人とも言えるから、そこをきちんと褒めることは日本人以上に大事なのかもしれません。ただ、これは女性が女性と友人になる場合で、男性の場合はちょっと向いていないかも。

男性の場合は、趣味？ ジョギングとか水泳とか。

根っからのインドアな僕には絶対できないけどね。一緒にジョギングをしましょう、とか一緒に泳ぎませんか、とか明るく接することができれば、友達を作る第一段階としてはかなり有利になれます。あと、友人を作るに当たって近所に中国人がいない場合は、職場に中国人の同僚、あるいは中国人の友人がいる同僚と



話をして、面識を作っていくことかな？ それで「じゃあ飲みに行こう」って話になれば、ほぼ成功したと思っていいいでしょう。

多分、そのヒト奥さん連れてきます。中国での親しい付き合いは、だいたい家族単位ですカラ。



食事に誘った場合、たいていは家族や奥さんを連れてくるし、こっちも家族を連れてくるのは前提みたいに思われているからね。これは中国における幫の繋がりが、突き詰めると家どうし、一族どうしの付き合いであるため。だからこそ、日常会話の中に趣味嗜好しこうや友人関係の会話しこうが必然的に入り、お互いが持つ関係性についての理解を求めていくことになるわけです。その結果、相手の家族関係や仕事上の同僚などの情報も掴つかんでいくことになる。

これは三段階目の贈り物の話にも繋がる、すごく論理的な手順なんです。仲良くするに当たって何を食べたか、どんなものが好きか、という話をしていくことで、相手の個人的な趣味嗜好を自然とリサーチできる。しかも、どんな人間も食



べなければ生きていけない以上、贈り物に相手の好きな食べ物をといるのはすごく有効な手段になるわけです。付け加えると、何を食べたかの質問のときに誰と食べに行ったかとかも聞いておくことで、誘うときの店や一緒に呼ぶ相手を選ぶときの判断基準にもしているんでしょう。

そうして得た情報を活かして、どこかに出かけたときや、季節の節目ごとに相手に贈り物をするのが三つ目の段階になります。ただ、この時に高すぎる物を贈るのはよくありません。

例外は恋人にしたい時デスネ。無理をしても駄目デスケド、ケチはもつと駄目です。

その意味では僕が月とデートした時に、特に金額を気にせず買って贈っていたのは、結果的にいいことだったのだなあ、と後で『中国嫁日記』ちゆうごくよめにっきを読み直して思いました。



井上純一『中国嫁日記（一）』123頁。KADAKAWA、2011



でも、お金がないならケチでなくても駄目ですよ。貧乏な人ハ、彼女のためにお金を一杯使っても駄目。



これは身内は同程度の経済レベルで集まるって言うのと同じですね。無理をしたところで、ずれている経済レベルの差が埋まるわけではないので、そんな相手を身内に組み入れても経済的な利益はなく、共同体レベルで先を見ると得るものがない、と。まあ、あともうひとつ大きいのは、現在中国では男性と女性の人口比で男性の比率がかなり高く、女性が売り手市場なんで経済力がないとそもそも女性と付き合えない、という点もあります。



友達と恋人はまた違いますカラ。友達になりたいなら、そのヒトの好きな物、興味の持てる物をあげマス。恋人にしたいヒトでも、恋人になろうとする前は友達と同じで、恋人になろうとすればからは高い物を贈るようにシマス。



なぜなら、この贈り物も中国の「貸しと借り」の考えに含まれるためですね。交際しない異性に対し高額の贈り物をする、付き合うわけに行かない相手は後でその贈り物の分の恩を返さないといけないうわけですね。それこそ、十万円の指輪をもらったなら、何らかの形で十万円分を返さないといけません。それができる以上、受け取るわけにはいかないわけです。付き合っている場合は、相手はすでに身内と同じような扱いというか、「身内に迎え入れたい、このぐらい本気だ」という主張に繋がるといふ部分もあるんでしょう。

では具体的にどういふタイミングで、どういふ品を友人になりたい相手に贈ればいいのかとなると、ちゃんとコミュニケーションを取って、相手の望むものを知らないと色々難しい。そこで、日常会話でのリサーチが重要になってくるわけです。もちろんですが、相手が贈り物を持ってきたときは快く受け取るべきです。「貸しと借り」は貸し合い、返し合うことでバトンが続いていき、それによつて関係が強化されていくわけですから。

あと、友達と恋人で贈り物の頻度は違いますヨ？





友達はさつきも言ったように遠くに行くごとに、とか季節の節目ごとに、とかだけど、恋人の場合は会って何日目、とか色々お祝いの日を作っては贈り物をしないといけないからね。●●記念日、なんていうのはすごく重要なものとなります。日本みたいにクリスマスだからといって付き合ってもいない人にプレゼントはしないみたいだけど。

それはしないデスネ。



友達に贈るときの節目とかも判断が難しいとは思いますが、仕事で出張に出た時とかに、「これはあなたに合うと思ったので」とか言って買って贈ったりするのがいいでしょう。



だから、中国人は日本から中国に戻る時にたくさんおみやげ買いますネ。



逆に言うと、中国人の友人や、友達になりたい人、あるいは恋人にしたい人のためのおみやげを用意するにはそうやってたくさん買わないといけないわけです。そして、中国に戻ってきたら帰還報告をみんなに出し、友人たちで食事をする。その時の二次会とかで親しい相手とカラオケに行くことが多いので、そこで贈り物を渡すことが多いです。



数が足りなかったりした場合は後に回して、近いうちに渡したりもしますケド。アト、恋人にしたい人がいるときは、この時も他の人よりは高い品をあげたほうがいいデス。



出張とか旅行に行くのも財力あつてのことだから、そういうみんなの前で大事な人に特別なプレゼントを、というイベントを作れないやつは男として甲斐性かいしょうがないと見られてしまうわけだね。



「アナタのことがこれだけ好きです」って見せてくれないと困りマス。



理解してもらうために意志を提示して欲しい。結局それは友人関係でも仕事関係でも恋人関係でも同じということだね。恋人の場合は、「あなたのことがこれだけ好きです」っていうのを、プレゼントの金額や回数、みんなの見ている前で贈り物を渡すこと、などで主張するわけです。

そうそう、キット嬉しい思ってくださいヨ。



ちなみに出張や旅行、季節の節目ごと、と言ったけど、実際にプレゼントを贈るのは大体ひとりの人に対しては一年に一回か二回ぐらいがいいでしょう。頻度が高すぎても、貸しの作りすぎになってしまいますし。で、この贈り物のところによく出る一緒に食事をする、という話ですが、中国ではこれは非常に重要なことになります。親しい人と呼んで外食はするべきだし、誘われたなら行かないといけない。これは中国における関係性を深めるための重要な儀式なんです。実際、月も中国にいるときはよく色々な所に呼ばれて行っています。本当は僕も行かな

いといけないんですが、僕は中国語が上手くできないのであまり行ってはいませ  
ん。これは本当はよくない。

言葉通じないから仕方ないテ、みんなに言ってマス。



本当は言葉が通じなくても行かないといけないんだけどね。月の友達に夫を紹介  
しないということは、月が友達に心を開いていないと判断される要因にも成り得  
るので。何度も繰り返して言っていますが、自分の家族や好みなどの情報を開示  
し、相手に理解してもらおうことを中国人は非常に大事にします。この食事を一緒  
に取る、というのも家族や友人を連れて食事に行くことで、お互いの家族や交流  
関係を知ってもらったり、相手の交友関係を知ることに関わるわけです。そして、  
そこで出会った「友人の友人」から更に交友が広がっていくわけですね。むしろ、  
積極的に「僕の友達を紹介します」と紹介し合うことが多い。

友達の友達は友達ですカラ。





その結果、「友少の同学」とか「同学の朋友」とかと知り合い、「友少や同学の友人である」という信用を背景に、その人と一緒に仕事をしたりして関係を深めていき、自分とその人が朋友になる、という形で広がっていくのが中国的な人間関係ですね。序文でも言っていますが、朋友はまず利害から入ります。だから「あなたと仕事をしたくて、友人の伝手<sup>て</sup>を辿って挨拶に来ました」なんてのは割とよくあるみたいです。あと、「自分とあなたの力を合わせれば、これだけ儲けることができるはずだ」とかも多い。力を持っているものがそれを合わせて成功する——この場合は金を得る——というのが、朋友の基本的な繋がり方ですから。

まあ、これには落とし穴もあって、「この人の友達だから」っていう理由で信じやすくなっちゃうから、詐欺<sup>さぎ</sup>に騙されるときはその友人のグループが一斉に騙されたりもするんですよ。そこは注意した方がいいかもしれません。

その友達を作るための手段である食事ですが、これにも二段階ほどあります。まず最初の段階が**一緒に外食をすること**。さっきも言ったように、ここに互いの家族や友人が同席するのが前提となります。実際、僕がお仕事して



いるフィギュア工場での食事の時は、僕の全く面識の無かった工場の人いとこの従兄弟さんとかが来ていましたし。そして二段階目が、家に招いての食事になります。この段階では招く、ということが重要なので、料理自体はできないものとかでも構いません。手料理を振る舞えるなら、そのほうがよりよいのは間違いないですけど。大事なのは、相手の懐に入っているかどうか、ということですね。その上で相手にも招待されて家に行くというのも大事です。お互いがお互いの家で食事を取った、という段階まで行けば、友人としてはかなり親しい段階と言えるでしょう。やることとしてはアメリカのホームパーティーみたいな感じですよ。

一緒に家で食事をするぐらいなら、すごい仲良しデス。

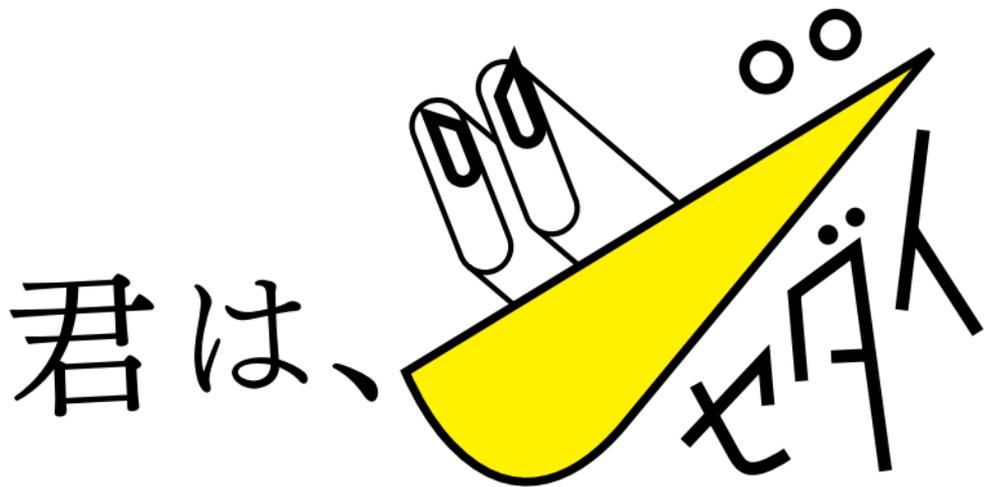
その先に家に泊まる、があるね。日本でも時代劇とかで遠方の友人の家に泊めてもらう、とかありますけど、中国ではそれが現代でも大事なこととされているんですよ。だから、遠方に住んでいる友達が自分の家の近くに来たなら、



ホテルに案内するのではなく自宅に泊めてあげる方が望ましい。そこま  
で行けば、身内か身内一步手前ぐらいの段階まで行くんじゃないかな？

家に泊まるは、すごく仲良いデス。自分の家族、ミンナ紹介してアゲルテ。

同じ家で食事をする事が「お互いの懐に入る」ことなら、一緒の家で  
眠ることは「己の身を相手の懐に預ける」ことだからね。そこま  
でできる相手は、よほど親しくないと無理だから、逆説的にすごく親しい友人で  
あることになるわけです。



君は、

ゼダイ人

何と闘うか？

<http://ji-sedai.jp/>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

**ジセダイイベント**

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

**ジセダイ総研**

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

**会いに行ける編集長**

毎週「つながる」毎月「会いに行ける」。新書出版を目指す新人と編集者による「知の格闘」を生放送！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

**行動せよ!!!**